

スイングインパクト ファット誕生物語

2007年の秋、私は3inの小さなシャッドテールタイプのワームを開発していた。満足できる結果を得て、このワームはほどなく完成した。テールをワイドに振り、その動きがボディー全体を揺らす、そのアクションは晩秋の山中湖のバスを大いに魅了した。テールの振りが大きくスイングしていることから、私はこのワームを「スイングインパクト」と名付けた。

を作るためのさじ加減を身につけた、と言えるものだ。テールデザインの間、テールとボディーとの関係、デザインとマテリアルの硬さの関係など、数字にはならない、まさに感覚的なものである。このような「感覚」を身につけてしまうと、当然その路線上でさらなるトライをしたくなるのは必定。「そうだ、5inくらいのバルキーなやつも作ってみよう」となるのである。

デザインを起し、試作型を作り、まずはさまざまなテストに供するたき台ともいえるサンプルを成型。とにかく

林さん得意のピッチングによるアシ撃ちは往年のバスアングラーにはお馴染みの光景だが、今回は使っているルアーがひと味ちがう。林さんの自信作スイングインパクトファット4.8inについて、直筆原稿で解説してもらった。撮影は常陸利根川のV6マリンから出撃し、常陸利根川、利根川、黒部川で行なった。

林 圭一 (はやし・けいいち)
1959年東京生まれ、山梨県在住。日本大学水産学科卒業。日本のトーナメントシーンの創成期からJBTA、JBのトップカテゴリーで活躍。本誌オールスタークラシック提唱者のひとり。1996年にルアーメーカー「ケイテック」を設立。同年10月27日のオールスタークラシック(霞ヶ浦)では、得意のフリッピング&ピッチングで優勝。このとき使ったルアーが自身が開発したケイテック・ラバジグ・モデルI+カスタムトレーラーである。現在は社長として製造、開発に取り組む日々。テスト釣行は山中湖、琵琶湖、利根川水系と幅広いフィールドで行なっている。ケイテック・ウェブサイトではスイングインパクトファットの使い方を林さんが手書きイラストで詳細に解説。ぜひ活用を!
<http://keitech.co.jp>

く水をよく噛み、強いアクションであること、水の抵抗が強く、ノーズシンカーでもしっかりとした引き心地であること、ハリもちがよい硬いマテリアルに調和し、よく動くことなどを念頭に置いた。

実釣テストで 見えたこと。

水槽でのスィムテスト、その結果を反映させてのデザイン調整という「基礎プロセス」を終えた私は、山中湖、利根川、そして琵琶湖というそれぞれタイプの違う水域での「実釣プロセス」を開始した。そして釣り重なるほどに以下のことを確信するに至った。

- ①このワームの魚を呼び込む力はかなり強い。どのくらいかは定かではないが(また、状況によっても変わる)、つくるのだから、けっこう通くバスにまで動きかけると思う。
- ②魚がいれば即バイトができる気がする。つまり、そのスロットにバスがいる、いないの見極めが早くなり、ワームとしてはスピーディーなゲーム展開がしやすい。
- ③いわゆるスィムベイトとしての使用はもとより、テキサスリグで普通にワームっぽく使うのもいい。いや、むしろテキサスリグで何かに引っかけ、それをプルッと外す、つまりワームフィッシングの王道「バングオフ」の効果には目を覚ますものがある。
- ④実釣初期は「でかめのワーム」というイメージだったが、使い込むほどに大きさを感ぜなくなる。つまり、状況

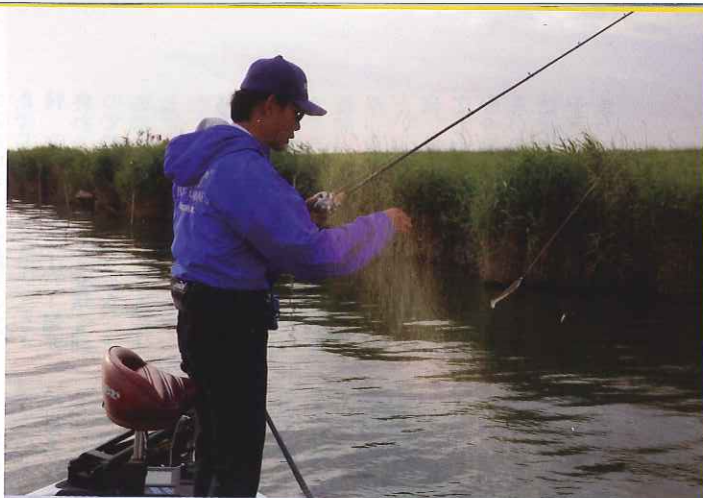
水を掻け、
バスを寄せろ!!

SWING IMPACT FAT

スィムベイト系 オールラウンダー

スイングインパクトファット講座

林 圭一 文 金澤 一嘉 写真
text by Keiichi Hayashi photographs & text by Kazuyoshi Kanazawa



がタフだったり、プレッシャーが高いといったような釣れにくい条件下でもこのサイズがほとんど苦にならない。むしろ「このくらい存在感があったら釣れたのかな」と思えるような魚が多い。

私はいつしかこのワームに夢中になっていった。釣行のたびに必ずといっていいほど「これってスゴくない？」と思えるような魚が1〜2尾出てくるのだ。この件を小林編集長に熱く語っている。

スイングインパクトファット4.8inの特徴。

- ノーシンカーリグ用
ロッド:フェンウィック・テクナAV TAV60CMLJ
(6ftミディアムライト、3/16~1/2oz、6~12Lb)
リール:TD-Z 103H
ライン:バウオ・スーパーハード・プレミアムプラス
ハイグレード13Lb
- 乳首リグ用
ロッド:フェンウィック・テクナAV TAV60CMLJ
(6ftミディアムライト、3/16~1/2oz、6~12Lb)
リール:TD-Z 103H
ライン:バウオ・スーパーハード・プレミアムプラス
ハイグレード13Lb
- テキサスリグ用
ロッド:フェンウィック・テクナAV TAV60CMJ
(6ftミディアム、3/16~5/8oz、8~16Lb)
リール:TD-Z 103H
ライン:バウオ・スーパーハード・プレミアムプラス14Lb
- ラバージグ(トレーラー)用
ロッド:フェンウィック・テクナAV TAV73CMH-TJ
(7ft3inミディアムヘビー、3/8~1/12oz、10~25Lb)
リール:TD-Z 103H
ライン:バウオ・スーパーハード・プレミアムプラス14Lb

スイングインパクトファット4.8in活用タックル



それではまずこのワームの特徴から説明していこう。これを理解することなしに正しい釣り方、豊かな釣果はあり得ないと思うからである。

(注:マークを記した箇所は筆者の思い込みです。それが本当に事実か否かは、バスのみぞ知るころであります。)

①ワイドなテールアクション

大きく強いテールアクション。その名の通り、まさにテールがスイングする感じ。このアクションが水を大きく掻き、集魚力の源となっている。またその水のヨレ方が本物のベイトフィッシュのそれに近く、バスにスイッチが入りやすい。

②ボディ全体がロールする

強いテールアクションにより、ボディから頭までが揺れながらロールする。これも魚を呼ぶ重要な要素。「生命感」だと思おう。またこのロールがロッドティップを介して、手もとに伝わってくるので、ノーシンカーなどで水平

方向にスィムさせる際のトリップ感覚を掴みやすい。リトリブしながらワームの動きを確認できるメリットは大きい。

③水噛みがい

テールの水噛みがすごぶるよい。よって静止状態からのアクションの立ち上がりが早く、短距離でも瞬時に起動する。後述するが、これはテキサスリグのハングオフでとても大きな効果を発揮する。受けた水の抵抗をムダなくアクションに変換する。



ノーシンカーリグによるバジング釣法。リトリブスピードは、ワームが元気にアクションして水面をざわつかせる最低速度がいい。テールだけにあるという姿勢がおすす。ミディアムライトのロッドを使うと、引き味(震動)を感じることができる。

ノーシンカーリグ

(カラーはシルバーフラッシュミニ)。バジングや、水面直下のステディリトリブで使用。フックサイズは#4/0~5/0。

④優れた安定性

スローから高速リトリブまで常に安定した姿勢とアクションをキープ。よって使うフックやリグの種類を問わない。とくに好みに応じてフック選定できるというのは、ワームフィッシャーマンにとって大きいと思う。ちなみに私は、デコイ・アップパーカット#4/0を愛用している。

⑤ハリもちがい

先にも述べたが、ハリからズレにくく、丈夫なワームにする、というのは開発当初から念頭に置いていたことである。この手のベイトは、とりわけロングキャストしにくくなる。この点で、総じて私たちが強くロッドを振ってキャストする傾向にある。こうした力のこもったキャストを幾度となく繰り返すわけで、それに耐え、姿勢を維持することは重要な性能と言える。

これは、テストに行ってみたらわかったことなのだが、とくに琵琶湖では岸から釣るボートから釣る、ロングキャストを重んじる傾向が強い。これは、多くの場合フラットなワイドエリアに散ったバ

⑥こだわりのディテール
自分で作ったものに「こだわりの」という文言を使うのもなんだが、細部の作りにもいくつかの工夫をしてみた。

●リングボディ
私は個人的にこのリングボディが大好きで、それは以下の理由による。ベイトの輪郭がファジーになる一輪郭があいまいなものを魚は好む。表面積が増し水の抵抗が増える。ノーシンカーでの引き心地がよくなる。オフセットフックのハリ先を守る。ハリ先がリブに埋もれて具合がよい。

●腹部にネイルシンカー用の穴
腹部にネイルシンカーを左右対称に挿入する。乳首リグ用に穴をふたつ設置。乳首リグの説明は後述するが、ノーシンカー的に使えてやや深い層をうねることなく引くためのリグだと思っていほしい。軽めのスピナーベイトを繊細に、スローに引く際の感覚に近いものがある。

●頭部下側にセンターライン
オフセットフックを頭の先端から入れ、数mm後ろの腹側



乳首リグ
(カラーはライムシャート)。フックサイズは#4/0~5/0。



ボディ腹部に、ネイルシンカーを入れる穴をふたつ設けた。林さんが多用するネイルシンカーの重さは1/32oz X2本(計1/16oz)が標準で、1/16oz X2本(計1/8oz)まで。



ラバージグのトレーラー
(カラーはゴールドフラッシュミニ)。ケイテック・ラバージグモデルI(7g)に装着。カバー撃ちやボトムでのハングオフで使用。ただ巻き(マキバ釣法)ではジグにロールアクションを加味できる。詳細は本誌6月号(No.199)で琵琶湖ガイドの杉戸船長が解説している。

「バジング」

シャローカバーをターゲットに攻めるバジング。カバーの種類は、アシ、水面まで伸びたウィード、流木などの浮きゴミ、そして浅瀬などさまざまな環境で、水中により濃い陰を作るものがベター。こういったカバーにワームを当てながら、コース取りをしなが、テールで水面を掻いて存在をアピールするイメージである。

リトリブのスピードは、ワームが元気にアクションして水面をざわつかせることのできる最低速度が原則。また、あまりムキになってワームを浮かせようとせず、テールだけが水面に触り、ボディは水面ギリギリ程度の姿勢がベイトを誘うと思う。リトリブはあくまで一定のスピードで行ない変化はつけないほうがいい。

先ほど「カバーにワームを当てられるコース取り」と言ったが、このことは納得のいくベイトを得るための絶対条件だと考えてほしい。たしかに生き物相手だから、ただ水面を走らせているだけでも釣れてしまうことはあるが、カバーにワームを当てながら引く術を覚えると、その確率は不思議なもので、この手の「ただ巻き」系の釣りでは、おしなべて人間がつける変化(たとえばリトリブスピードの緩急やトウィッチ)をバ



たバスをいかに高い確率で食わせるかである。実のところ、追尾バスの多くがワームを食わずのままだとかへ消えていく、というのが現実だ。

いい泳ぎをさせるためには、ボディやテールに無用なクセをつけないことが肝要。そのためワームは、製造する機械から出して、いちども平面に置かれ、釣場にはパッケージごと持っていき、よい状態で使ってい

使用方の基本は4つのリグ。

いよいよ本題、使用方の解説に取りかかろうと思う。私



テキサスリグ

(カラーはブルーギルフラッシュ)。探る水深やカバー、ストラクチャーの状態に合わせて、1/16~3/8ozのシンカーを使用。フックサイズは#4/0~5/0。

が実釣テストで使い、効果をあげたのは次の4つのリグである。

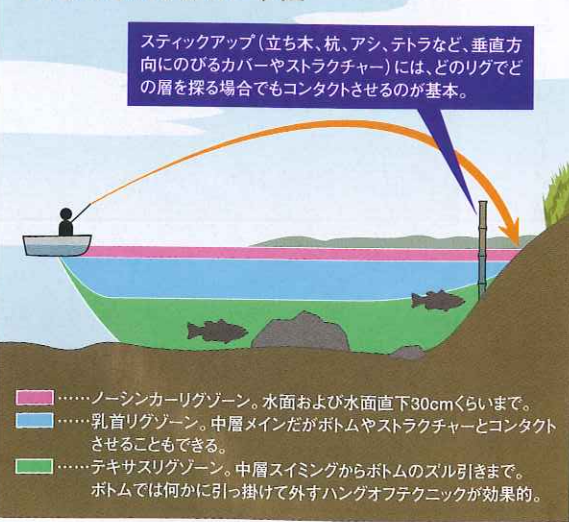
①ノーシンカーリグ、②乳首リグ、③テキサスリグ、④ラバージグ(トレーラー)

「ノーシンカーリグ」

ノーシンカーリグは主に水面をテールで掻くバジング、および水面直下をゆつくり、ステディにスィムさせ、バスを浮上させて食わせ、水面直下トロ口巻き、の2とおりで使用する。

飛躍的に向上すると思う。不思議なもので、この手の「ただ巻き」系の釣りでは、おしなべて人間がつける変化(たとえばリトリブスピードの緩急やトウィッチ)をバ

●リグごとの泳層イメージ図



【デキサスリグ】
3/32ozと3/8ozのデキサスリグ。私が実釣テストでもっとも多くの魚を手に入れているのは、やはりデキサスリグである。ウエイトは利根川で1/8oz、琵琶湖で1/4ozがメインになった。とくに琵琶湖では「マキマキ」と称してデキサスリグをウエイトに絡めながらリールで巻いてくるという釣り方が

主流だが、私の場合ロッドワークによるスローなズル引きでの実績が高い。たぶんそれが私の釣風なのだと思う。ゆっくりボトムをズル引いて、テトラやウエイトなど何かに引っ掛かったらリグを揺すって「ブリック」と外す。この丹念な作業の繰り返しで基本であり、多くのバイトは「ブリック」と外れた直後に集中する。こうしたハンクオフテクニックを駆使すると、リグが「ブリック」と外れた瞬間だけテールがバラバラと動き、テールアクションONの状態、そのほかのとき（ズル引き中）はリグが引っ掛かっている間はテールは動かない（テール

アクションOFFの状態。これは私の思い込みなのだが、ハンクオフによるこうしたテールアクションのONとOFFの切り替えが、極めて強くバイトを誘発するきっかけになっていると思えてならない。やはりテールアクションの立ち上がりの早さ（つまり水噴みのよさ）はこのワームのキモである。

いかがでしたか？ 私としては目一杯、脳に力を込めて書いたつもりです。ひとりでも多くの方がこの新たなワームの使い方をマスターして、新たな釣果に恵まれることを願っています。B

【乳首リグ】

ワームの腹部にあるふたつの小穴にネイルシンカーを左右対称に2本入れたリグ。そのネイルシンカーの姿から「乳首リグ」と名付けた。私の場合、3/32ozのシンカーを2本、合計1/16ozのウエイトを入れることが多いが、最大1/16ozを2本まではいい感じだと思う。

乳首リグは、ノーシンカーと後述するデキサスリグの中間に位置するもので、①ノーシンカーの層よりやや深い層をうわすことなく引きたいときや、②デキサスリグだと根掛かりやすいところ（ゴロ石や濃いウエイトなど）をフェイザータッチでズル引くときに効果のあるリグである。

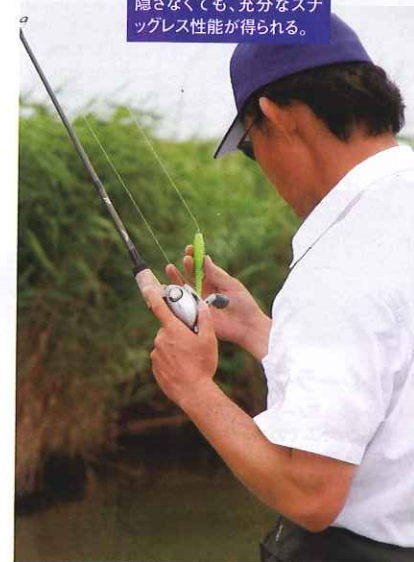
スイムベイトやワームとして使用できることは無論のこと、シャローでのスピナーベイトやクラックベイトのようなイメージで障害物に当たながらリトリブするのにも効果的な使い方だと思ふ。実際やってみるといろいろな釣れ方をするので、トロトロ巻き、障害物当て、ズル引きを組み合わせて試していただきたい。



ワームの上下からチェックしてフックが真っすぐ付いていればOK。ハリ先がリングボディのリップに埋もれるため、ハリ先を刺して隠さなくても、充分なスナッグレス性能が得られる。

貫通させるコース（刺す位置、抜く位置）をイメージする。

スイングインバクトファット4.8inの性能を発揮するためには、フックを真っすぐ刺すことが必須。フックを先端から刺し、腹側のセンターラインを目安にして写真のように抜く。



「おぬし……、少し見ぬ間に性根を曲げおったな。拙者が正してやろう」。根掛かりを外したり、込み入ったカバーを通過させたあとは、フックのズレを確認&修正。ワームにフックが真っすぐ装着されている状態を常にキープ。



リトリブスピードは水面、表層、中層をステディリトリブする場合は、ワームが元気にアクションする最低速度が基本。林さんは、リールのハンドル1回転に2〜3秒かけてゆっくり巻いていた（使うリールやイト巻き量によって差異あり）。また、ロッドワークでボトムをズル引きする場合は、1秒間に10cm（10秒で1m）が目安。

この追尾バスを少しでも高確率で食わせるには、以下の件に留意していただきたい。
①ロングキャストする。
ワームを追尾状態のまま釣り人またはボートに近いところまで来ると、バスはその気配を察知して消える。よってロングキャストして、ワームを遠くで見せ、遠くで追わせればバイトする確率は高くなる。

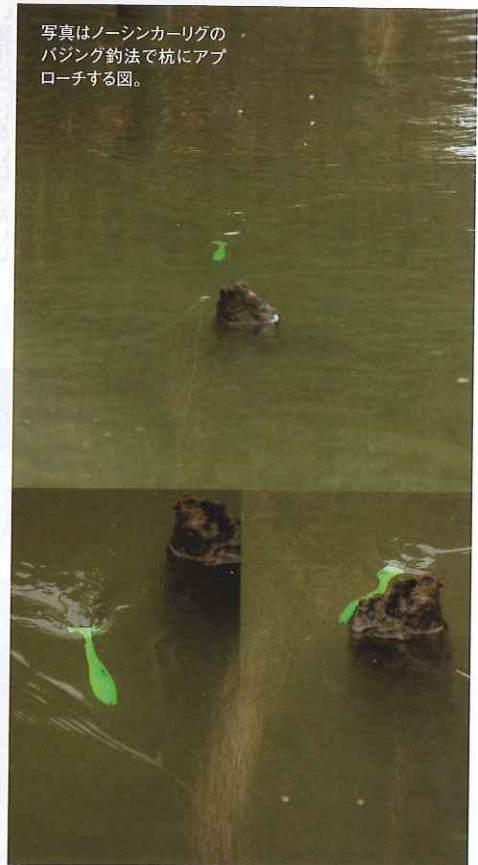
②ステディリトリブに徹する。
追尾バスのシルエットが見え、それでも食わないと、ついリトリブを止めたり、ピピッとロッドティップでアクションをつけたりと小細工したくなる。

黒部川のコンクリート護岸（タテ方向のストラクチャー）を探る。スイングインバクトファット4.8inの各リグは、フォール中もテールとボディを震動させて魚を寄せる。写真はフッキングが決まった瞬間。

るものだが、たいがい罅穴を掘る結果に終わる。変化をつけた途端バスはワームを見切り、シラケて消えることがほとんどだ。「私（ワーム）はあなた（追尾バス）に気づいていませんヨ」という態度を貫きとおす、つまりステディリトリブに徹することが肝要である。



立ち木、アシ、杭、テトラなどには、どのリグでどの層を探る場合でもコンタクトさせると効果的。スナッグレス性能が高いので、強気で探りを入れることができる。



写真はノーシンカーリグのバジング釣法で杭にアプローチする図。

読者プレゼント

スイングインバクトファット4.8inを2パックセットで6名にプレゼント。カラーはクリアでもマッティでも効果的と林さんがオススメする「シルバーフラッシュミノー」と「ゴールドフラッシュミノー」です。メールの件名を「スイングインバクトファット」にして、住所、氏名、年齢、電話番号、ホームグラウンドを明記して受付メールアドレスに送信してください。また、記事の感想や、使い方などについて林さんへの質問があれば書いてください（林さんに伝えます）。しめきりは8月15日です。当選者の発表はルアーの発送をもって代えさせていただきます。

受付アドレス
basser_beya@tsuribito.co.jp

誰もがキャストをためらう「ジャカゴ」エリアも、ノーシンカーリグや乳首リグなら探ることができる。オカッパリでチェックするのも有効だろう。

